

循環バス運行計画（案）に対するパブリックコメント募集結果について

募集期間 平成 30 年 12 月 21 日から平成 31 年 1 月 11 日まで（3 週間）

意見総数 5 名 10 件

意見対応 ①意見を反映するもの又は既に反映しているもの 3 件

②意見の一部を反映するもの 1 件

③平成 31 年 4 月の運行開始時には反映はしないが、今後の検討の参考とするもの 4 件

④その他 2 件

意見等の要旨	分類	意見等の対応
新しいバスの名称について、「安平町内の遠浅・早来・安平・追分地区を一つにして一緒に盛り上げよう」「良い町にしていこう」は、町民みんなの願いでもある。復興元年の新しいバス運行でもあるので、「安平ふれあいバス」とすべきである。	③	名称については、言葉の短さ、わかりやすさを重視し、「循環バス」を名称とします。ご意見のように、名称に新たな工夫を求める気運が高まれば、今後、愛称を公募することを検討します。
共通回数券について、地震で被災した町民に対してまだまだ十分な支援が行き届いていない状況にあり、その町民の負担を軽減するためにも、また地域の活気を取り戻すためにも「13 枚綴りを 2,000 円で販売（1 枚約 153 円）」すべきである。バス、デマンドバス、ハイヤーなどの利用促進にも有効だと考える。	③	運行開始時は、通常の共通回数券を「11 枚綴り（＝プレミアム率 1 割）」に設定し販売しますが、ご意見のように利用促進策の有効性・重要性は認識しておりますので、運行開始後に、例えば鉄道あるいは商店街等との相乗効果をねらった連携事業として、プレミアム率の高い共通回数券の販売などを検討していく考えです。
安平町は、子育て世代を応援しており、幼児、小学生、中学生などに配慮した地域公共交通を実現するためにも、運賃を無料化すべきである。	③	鉄道やデマンドバスなど、他の公共交通運賃やサービスとのバランスを考慮し、循環バスの 1 回乗車あたりの運賃は、大人及び中学生は 200 円、小学生は 100 円、幼児は無料とする考えです。
バスなどを利用しない理由の分析や乗り方説明などの工夫、小学校への出前講座を積極的に行うなど、地域公共交通存続に向けた実効性ある対策を期待します。	①	平成 29 年 5 月に策定した安平町地域公共交通網形成計画において、ご意見のような利用促進策の実施を掲げており、循環バスだけに留まらない、公共交通全体の利用促進策を実施していきます。また、近隣自治体や交通事業者との連携による取組も検討しているところでもありますので、具体的な実施計画がまとまりましたらお知らせします。
秋から冬にかけて、あつまバスの「明春辺」のバス停を利用していますが、あつまバス安平循環線に替わるこの循環バスには、明春辺のバス停が設定されていません。夏は雨の日以外は自転車で仕事に通っていますが、できることならバスを利用したいのでお願いします。	④	循環バスは、大きく地区を跨ぐ移動目的のための公共交通として位置づけられており、将来にわたる公共交通の維持確保のためには、役割分担を図ることによる共存が必要なため、追分地区内での移動はデマンドバスやハイヤーをご利用いただくようご理解をお願いします。なお、同一エリア内での移動利便性の向上を目指し、今後デマンドバスの改善にも努めます。

<p>遠浅小から遠浅墓地を入り、農道を通って土建会社の看板のある国道へ抜けるルートを経由して欲しい。自由乗降区間を希望。商店や銀行、内科や歯科医院に行きたい。毎日利用するわけではないので、せめて週に数便でも乗れるようにして欲しい。</p>	<p>④</p>	<p>ご希望の経路、目的地、乗車頻度を勘案すると、早来新栄から早来市街地までを移動できるデマンドバスが適当な交通手段であると考えますので、公共交通の役割分担の趣旨と併せてご理解をお願いします。循環バスは、大きく地区を跨ぐ移動目的のための公共交通に位置づけており、同一エリア内の移動を担うデマンドバスとハイヤーとの役割分担と共存に配慮した運行内容とします。</p>
<p>まずはこの計画でスタートするのはいいと思う。スタートするまでの利用促進策が重要です。高齢者など住民一人ひとりに利用方法を教えていくのかを検討してください。</p>	<p>①</p>	<p>循環バスの運行開始に合わせて、総合時刻表・路線図等の発行のほか、町広報紙やあびらチャンネルを活用して循環バスの運行を周知していきます。3月に発行予定の総合時刻表・路線図等には、乗り方ガイドなども掲載する予定です。運行開始後も継続して利用促進策を講じていきます。</p>
<p>乗車目的と接続交通はもっと広げて利用ノウハウとして告知すべきと思う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 買い物も目的の一つとして重要なので、ルートの工夫や活用方法の例を考慮すべき。 2. JR利用促進のためにも夕張、岩見沢、苫小牧、帯広方面の接続も記載してはどうか。 3. あつまバス（苫小牧・千歳）との接続も記載してはどうか。 4. 追分駅から道の駅間の連絡もJRと連携して駅舎に掲示するなど利便性を宣伝すべき。 	<p>②</p>	<p>[1～3について] ご意見と同様の趣旨で発行している総合時刻表等への記載内容の工夫改善を引き続き行い、「なるほど、循環バスでこんな行き方ができるんだ。こんな公共交通の組合せ方ができるんだ」という気づきが得られるような利用周知に努めます。なお、記載にあたっては、情報量と見やすさのバランスに考慮し、限られた紙面の中で最大限の効果が得られるよう努力します。</p> <p>[4について] ご意見のとおり実施します。</p>
<p>大人運賃 200 円は往復利用する人が多数でしょうから、負担感があると思う。他の自治体での私の経験では循環バスは 100 円でした。利用者が減ってしまっははいけませんので、再検討を望みます。</p>	<p>③</p>	<p>公共交通の共存を図り、持続可能な体制を目指すために、鉄道などの運賃やサービスとのバランスを考慮し、循環バスの1回乗車あたりの運賃は、大人及び中学生は 200 円、小学生は 100 円、幼児は無料とします。80 歳以上の方や 70 歳以上で介護保険料第 1～3 段階の方、しょうがい者、生活保護世帯やひとり親世帯（小学生は対象外）など条件に該当する町民には、共通回数券の年間定額交付による支援制度を設ける考えです。</p>
<p>病院の利用者のことを考えて早来地区の病院付近のルートを考え直してほしい。</p>	<p>①</p>	<p>通院に公共交通を利用される方は、主に高齢者であると認識をしています。そのため、高齢者の身体状況等を考慮すると「ドア to ドア」の公共交通が理想的であるものと考えています。よって、通院のために利用していただく公共交通は、大きく地区を跨ぐ移動目的のための公共交通として位置づける循環バスではなく、自宅前から乗車し目的の停留所までドア to ドアの移動が可能な「デマンドバス又はハイヤー」が引き続き役割を担うものとし、JR、循環バス、ハイヤーとの役割分担と共存に配慮したルート設定とします。しかしながら、これまでの間、住民の方々からのご要望の中に「しののめ交流館への移動の足が欲しい」というご意見もありましたことから、しののめ交流館・渡邊医院・早来医院のご利用目的にも応用いただけるよう、「役場総合庁舎付近から町民センター坂下の緑地付近」までを自由乗降区間として設定する方向で関係者協議を行います。</p>